

第4次 佐久の先人内定者 紹介文

資料 4

No.	氏名	生年	没年	表題・リード文(案)
1	こばやし ぶんそ 小林 文素	1769	1826	「日本で唯一の解体人形を作成した」 田野口村に生まれ、幼名を加蔵、通称文素という。代官所に仕えて、江戸を往復し、『解体新書』と出会い、その図に基づき、各臓器を模した精巧な人形を製作した。これはわが国解剖学史に残る現存唯一の解体人形で貴重。 (101字)
2	ともの ともひこ 伴野 友彦	1747	1834	「庶民の教育に尽くした江戸後期の神学者」 入沢村の神官の家に生まれ、詩歌や書に優れていた。京都で石門心学を修めた後に、郷里に成章舎を開き、佐久地域に心学を広めた。手習い師匠としても子女の教育や農民の指導育成に努め、門人や寺子は5百人にも及んだ。 (101字)
3	きうち ほうけん 木内 芳軒	1827	1872	「塾を開き多くの門人を育てた漢詩人」 江戸で佐藤一斎・梁川星巖ら著名な師に学び、佐久間象山とも親交があった。帰郷後は塾を開いて依田稼堂ら500人余の門弟を育てた。渋沢栄一も若い頃芳軒を漢詩の師として慕い、商用の際に必ず訪ねて親交を深めた。 (98字)
4	ひ たい だんえ(に)もん 比田井 弾右衛門	1840	1915	「山林行政に力を注いだ初代協和村村長」 明治維新後、村民共有の山林が国有化される中、県に繰り返し下げ戻し交渉を行い、蓼科山麓に広大な村有林を残し、村財政や村民の生活基盤を支えた。また、学校や病院などの設置、村会・郡会議員の歴任など、広域に於いても活躍した。 (108字)
5	きたはら じょうえ 北原 丈衛	1880	1968	「南佐久郡立農学校を廃校の危機から救った校長」 生徒が集まらず廃校の危機にあった南佐久郡立農学校(後の臼田高校、現佐久平総合技術高校)へ校長として赴任する。率先垂範を教育の基本理念として、学校をよみがえらせた。 。文部省より全国実業学校中の優良校として選奨もされた。 (107字)
6	いちかわ ゆういちろう 市川 雄一郎	1891	1950	「郷土史研究に力を尽くした」 長野県師範学校を卒業し、明治43年に中込尋常高等小学校訓導に赴任する。大正13年桜井尋常高等小学校長となり、以後退職まで佐久地域の校長を歴任した。教職のかたわらで郷土史の研究を進め、『役筆筒から見た下小田切村』などの著書を遺した。 (113字)
7	い で こうきち 井出 幸吉	1891	1965	「佐久の広域水道建設に尽力」 昭和20年代、佐久では集団赤痢が流行した。上水道の普及が急がれるなか、畑八村(現佐久穂町)村長として村内の水源を提供し、わが国初の地方広域水道を建設した。当時の野沢保健所長瀬下良一郎とともに「佐久水道の父」としてたたえられる。 (113字)
8	ガブリエル・ディアス	1919	2010	「宣教と幼児教育に長年貢献した」 フランシスコ会神父として1953年来日。野沢地区にカトリック教会とカトリック幼稚園を創立。宣教師としてキリスト教の教えを伝え、園長としてユニークな幼稚園活動を行い、多くの園児と地域の人に慕われた。 (99字)
9	わたなべ しずか 渡辺 静	1923	1945	「特攻に散ったプロ野球選手」 小諸商業学校(現小諸商業高校)の四番打者として活躍。職業(プロ)野球朝日軍に入団するも、学徒出陣で陸軍に入営。特別攻撃隊を志願し、第165振武隊として知覧特攻基地から出撃、特攻死した。 (90字)

第4次 佐久の先人内定者 紹介文

資料 4

No.	氏名	生年	没年	表題・リード文(案)
10	ささき まさこ 佐々木 方子	1924	2000	「佐久の音楽の裾野を広げたピアノ教師」 高校の音楽教師を勤めたあと、自宅でピアノと声楽を多くの子どもたちに教えた。「音楽を専門的に学ぶなら佐々木先生」と言われ、国内外で活躍する教え子を数多く輩出し、佐久の音楽の裾野を大きく広げた。 (95字)
11	もろさわ ようこ	1925	2024	「志縁(しえん)」を提唱・実践した女性史研究家」 地方紙記者、紡績工場の学校教師などを経て、女性運動家の市川房枝が主宰する婦人問題研究所員となり「婦人展望」の中心的な編集者として活躍した。郷里の「歴史を拓くはじめの家」を拠点として、志を同じくする人々との交流を続けた。 (109字)
12	ほらだ きしこ 原田 岸子	1926	2014	「やまびこ国体3位入賞に導いた新体操指導者」 野沢南高校他長年新体操部の指導者を務め、監督として昭和53年やまびこ国体長野県少年女子チームを第3位入賞に導いた。自他共に厳しく人を伸ばす指導法や、明るくざっばらんな人柄で知られ、地域の子ども達や女性を中心に体操を広め健康意識の向上に寄与した。 (122字)
13	い で まごろく 井出 孫六	1931	2020	「時代を切り取り、人間を描き続けた作家」 作家・水上勉は「井出さんの仕事は丹念である。資料に資料をかさねて、深読する。わからぬところは訊ねにゆく」と記している。しかもその取材対象は、めぐまれないなかで必死に生きようとする有名無名の人たちだった。そして「戦争を二度と起こしてはいけない」という強い信念を生涯持ち続けた。 (137字)
14	やまかわ けいすけ 山川 啓介	1944	2017	「作詞家、脚本家、舞台構成作家として活躍」 活動は大学時代から始め、流行歌、こどものうた、訳詞、CMソング、脚本、舞台構成など多彩。NHK「おかあさんといっしょ」でも作詞や人形劇の台本を手がけ「北風小僧の寒太郎」も誕生。「さく・わが市(まち)」、校歌、園歌など地元に残した歌詞も多い。 (117字)
15	つちや りゅういち 土屋 竜一	1964	2020	「難病と闘い続けたシンガーソングライター」 デュシェンヌ型筋ジストロフィーと闘いながら、ラジオパーソナリティ、シンガーソングライターとして活躍し「車いすのソングバード」と称された。人工呼吸器を装着しつつも楽曲制作、執筆活動等続け、道を切り開く強さを示した。 (107字)